

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2019-03-25<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属:        |
| URL   | <a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/2081">https://repository.ninjal.ac.jp/records/2081</a> |

# 日本語科学

Japanese Linguistics

10

2001年10月

October, 2001

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language  
Tokyo, Japan

# 日本語科学 10

## Japanese Linguistics 10

国立国語研究所

The National Institute for Japanese Language

2001年10月

October, 2001

---

文化と言語資源 田中 穂積 3

### 研究論文 Articles

空間移動を表す動詞の分析

—構文特性・アスペクト特性・タクシス特性に基づいて—

An analysis of the verbs denoting spatial movement

—On the basis of syntactical, aspectual and taxis features—

岡田 幸彦 OKADA Yukihiko 7

接続助詞の語彙的な意味と文脈的な意味

—クセニとノニの記述と分析を巡って—

Conventional and contextual meaning of the Japanese subordinate conjunctions *kuseni* and *noni*

渡部 学 WATANABE Manabu 34

京都市方言・女性話者の「ハル敬語」

—自然談話資料を用いた事例研究—

The *haru-keigo* of Kyoto-city dialect in female speech

—A case study based on transcripts of spontaneous conversations—

辻 加代子 TSUJI Kayoko 56

『哲学字彙』再版と三版の増補訳語について

Newly adopted words in the 2nd and 3rd versions of *Tetsugaku-jii*

朱 京偉 ZHU Jingwei

80

調査報告 Report

『厚生白書』のカタカナ語

Katakana in *Ministry of Health and Welfare White Papers*

中山 恵利子 NAKAYAMA Eriko

107

---

世界の言語研究所 (10) コレヒオ・デ・メヒコ

上田 博人

128

国立国語研究所国際シンポジウムのご案内

既刊内容 (第7号～第9号)

投稿規定・執筆要領

編集後記

# 国立国語研究所国際シンポジウムのご案内

「多言語・多文化共生社会における言語問題」というテーマで今年度の第1部会を開催します。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。自由参加ですが、発表原稿集を準備する都合上、参加ご希望の人数を事務局にメールでお知らせください。

コーディネーター：吉岡 泰夫／事務局：早田 美智子（mihayata@kokken.go.jp）

## 国立国語研究所 第9回 国際シンポジウム

### 第1部会

The National Institute for Japanese Language

9th International Symposium

Session 1

### 多言語・多文化共生社会における言語問題

Language Problems in Multilingual and Multicultural Societies

日 時 2001年10月22日（月）午前10時～午後5時

会 場 国立国語研究所 講堂

- 研究目的**
- (1)多言語・多文化共生社会における言語問題を国際的な視野で把握し、新世紀の言語計画・言語政策を探索的に研究する。
  - (2)近い将来に日本で社会問題化することが予想される言語問題を、国際的な社会状況の変動と関連付けて把握し、問題解決に貢献する研究を開拓する。
  - (3)言語問題を軽減し排除するための処理手続きについて検討し、日本で計画的に進めべき言語政策の課題を明らかにする。

### プログラム

10：00～12：25 午前の発表 司会：尾崎 喜光（国立国語研究所）

10：00 開会あいさつ 甲斐 睦朗（国立国語研究所長）

10：05 趣旨説明：言語問題・言語政策の調査研究

Research on Language Problems and Language Policies

吉岡 泰夫（国立国語研究所）

10：15 発表1：多言語・多文化共生社会における言語保持と言語教育の問題

—集团的移住に伴う日本語保持を例に—

Problems of Language Maintenance and Language Education  
in Multilingual and Multicultural Societies

—The Cases of Japanese Language Maintenance in Group Immigration—

佐々木 倫子 (桜美林大学)

10:55 発表2: ブラジルにおける言語問題とその解決のための言語政策

Language Problems and Language Policies in Brazil

Irenilde Pereira dos Santos (サンパウロ大学・Brazil)

Cecilia Kimie Jo (パウリスタ州立大学・Brazil)

11:45 発表3: 多言語・多文化共生社会における言語政策

Language Policies in Multilingual and Multicultural Societies

東 照二 (ユタ大学・U.S.A.)

12:25~13:40 昼食

13:40~15:00 午後の発表 司会: 尾崎 喜光 (国立国語研究所)

13:40 発表4: 対人コミュニケーションの言語問題

Language Problems in Interpersonal Communication

宇佐美 まゆみ (東京外国語大学)

14:20 発表5: ポライトネス・ストラテジーに関する言語問題

Language Problems related to the Politeness Strategies

吉岡 泰夫 (国立国語研究所)

15:00~15:20 休憩

15:20~16:55 コメント・討論 司会: 相澤 正夫 (国立国語研究所)

15:20 コメント1 馬瀬 良雄 (信州大学名誉教授)

15:40 コメント2 江川 清 (広島国際大学)

16:00 全体討論

16:55 閉会あいさつ 吉岡 泰夫

17:00 終了

なお、今年度は他に、第2部会「今後の日本語教育における教師教育を考えるⅠ: 指導者と実習教育」(仮題)を開催します。(12月: 非公開)

既刊内容（第7号～第9号）

【第7号】（2000年4月）

- 「新しい日本語」と日本語教育 阪田 雪子  
 「非限定」の連体修飾節に関する一考察—「眼前描写」の連体修飾節について—  
 ソムキヤット チャウエンギジジワニッシュ  
 動詞慣用句に対する統語的操作の階層関係 石田 プリシラ  
 共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の関連について ポリー・ザトラウスキー  
 ニ格名詞句の意味解釈を支える構造的原理 和氣 愛仁  
 言語行動分析の観点—「行動の仕方」を形づくる諸要素について— 熊谷 智子  
 Japanese loanwords in Pohnpeian : adaptation and attrition MIYAGI Kimi  
 可能構文における格交替現象について 中村 裕昭  
 災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論  
 松田 陽子・前田 理佳子・佐藤 和之  
 林 徹  
 世界の言語研究所（7）トルコ言語協会 TDK  
 平成11年度国立国語研究所公開研究発表会報告  
 第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告—その2—  
 第4専門部会／第5専門部会／第6専門部会

【第8号】（2000年10月）

- ことばのサーモグラフィ— 中西 進  
 連用修飾成分「ほど」句の用法について 井本 亮  
 関係動詞の語彙と文法的特徴—照合行為の介在をめぐって— 山岡 政紀  
 日本語心理動詞の適切な扱いに向けて 三原 健一  
 19世紀末の韓国語における日本製漢語—日韓同形漢語の視点から— 張 元哉  
 漢字語と仮名語における語処理の差異—英語話者日本語学習者の思考過程—  
 豊田 悦子・久保田 満里子  
 異体字に対するなじみと好み—接触印象・使用頻度との関係— 笹原 宏之・横山 詔一  
 明治初期小新聞に見る「です」の様相 長崎 靖子  
 総合雑誌『太陽』の本文の様態と電子化テキスト 田中 牧郎・小木曾 智信  
 世界の言語研究所（8）フィリピン語委員会 大上 正直  
 第8回国立国語研究所国際シンポジウムご案内  
 平成12年度国立国語研究所公開研究発表会ご案内

【第9号】（2001年4月）

- 厳しさの底にあるもの 野地 潤家  
 特集：電子化資料による日本語研究  
 サ変動詞の活用のゆれについて—電子資料に基づく分析— 田野村 忠温  
 新聞漢字調査の現状と将来 横山 詔一・笹原 宏之・エリック・ロング・谷本 玲大  
 「日本語話し言葉コーパス」における書き起こしの方法とその基準について  
 小磯 花絵・土屋 菜穂子・間淵 洋子・斉藤 美紀・籠宮 隆之・菊池 英明・前川 喜久雄  
 いわゆる詠嘆・含蓄の「も」について 畠山 真一  
 高知県方言ラ（一）の暗示性と明示性 上野 智子  
 九州における活用型統合の様態とその経緯—『方言文法全国地図』九州地域の解釈— 彦坂 佳宣  
 高校国語教科書における外来語の使用状況 橋本 和佳  
 被調査者の属性による偏りを持たない項目  
 —『国語に関する世論調査』（H7年度調査～H10年度調査）から— 田中 ゆかり  
 世界の言語研究所（9）アイオワ大学（FLARE プログラム） 西郡 仁朗

『日本語科学』投稿規定・執筆要領  
(2001年10月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回(4月, 10月)発行する。(投稿の受付は随時)

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類, 分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。なお、原則として、対象とする時代は明治中期以降とする。投稿原稿の種類と分量(タイトル, 氏名, キーワード, 要旨, 概要を含む)は以下のとおり。

**研究論文**: オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

**調査報告**: 調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

**研究ノート**: 問題提起, 事例報告, 中間報告などの小論文。(10ページ程度)

各投稿原稿は、CD-ROMの形でデータやプログラム等を添付することができる。

この他、所内外の研究者に**展望論文**(研究動向, 現時点での課題, 将来の展望などについて論じた論文, 20ページ程度), **書評論文**(20ページ程度)の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字(簡体字・繁体字), ハングル, キリル文字, ギリシャ文字を用いることは可(それ以外の文字はローマ字化)。
- 2) 原稿はA4判横書き, 43字×36行で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き, 30字×21行×2段。)英文の場合はマージン上下2.5cm, 左右2cm(フォント12ポイント, 1.5スペース)を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には、**キーワード**(5つ以内), **要旨**(問題と結論の要約, 10行程度), **概要**(議論全体の概要, 英文は250語以内, 和文は20行以内)をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合, 要旨・キーワードは日本語, 概要は英語を用いる(概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合, 要旨・キーワードは英語, 概要は日本語を用いる(概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。  
著者名(発表年)「論文タイトル」『書名/雑誌名』巻号(雑誌の場合)ページ 発行所  
例: 井上 優・生越直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会  
宮島 達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版



Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz (ed) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions. *Language* 51. 1-31.

- 5) 付属CD-ROMにデータ等を添付する場合は、容量やデータの形式等について、あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

## 6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査する。編集委員会は、査読結果にもとづいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず、査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

## 7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）」を明記の上、原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

## 8. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採録決定後の改稿や修正は認めない。

## 9. 著作権

- 1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に編集委員会まで知らせること。
- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

---

投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

問い合わせ先、文書・FAXまたは電子メールで編集委員会まで。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

FAX 03-3906-3530（共用につき『日本語科学』編集委員会宛明記のこと）

E-mail [kagaku@kokken.go.jp](mailto:kagaku@kokken.go.jp)

URL <http://www.kokken.go.jp/public/kagaku.html>

## 編集後記

◇昨年10月に編集委員長も含め、編集委員の一部交替があったことは、前号でもお伝えした。前号の編集作業はそれ以前からも行われていたので、実は、前号の編集の半分ほどは、旧委員会が担当していたことになる。その点を考慮に入れると、新委員会が最初から担当した号は、本号が最初ということになる。その新委員会に新しい委員が1名、この6月から加わった。研究所員の杉本明子である。ヤングパワーの今後の活躍にご期待いただきたい。

◇新委員を急遽増員したのは、昨年度から顕著になってきた委員の仕事量の増大化傾向がさらに助長してきたためである。ちなみに、4月から8月までの投稿論文数は25本にのぼり、とりわけ、6月と7月にその半数以上が集中した。その理由は不明であるが、とにかく編集委員としてはうれしかざりである。本誌も創刊して、5年目に入り、学術査読誌として学界に評価が定着しつつあるものと推測する。今後も各方面からのできるだけ多くの投稿を期待するものである。

◇本号の英文校訂は国立国語研究所招聘研究員の大原由美子氏とカネギ・ルース氏にお願いした。

### 編集委員

- 伊藤 雅光 (委員長, 国立国語研究所)  
大島 資生 (東京大学留学生センター)  
尾崎 喜光 (国立国語研究所)  
加藤 安彦 (国立国語研究所)  
熊谷 智子 (国立国語研究所)  
杉本 明子 (国立国語研究所)  
鈴木 美都代 (国立国語研究所)  
塚田 実知代 (国立国語研究所)  
山田 進 (聖心女子大学)  
横山 詔一 (国立国語研究所)

### 『日本語科学』10

2001年10月30日 発行

- 編 集 国立国語研究所  
『日本語科学』編集委員会  
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14  
TEL. 03-3900-3111(代表)
- 発 行 国書刊行会  
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15  
TEL. 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
- 印 刷 株式会社エーヴィスシステムズ  
製 本 大口製本印刷株式会社